

平成 30 年度茨城県教育研修センター外部評価委員会

1 外部評価委員会委員名簿

所 属 及 び 職 名	氏 名
国立大学法人茨城大学 教育学部長	荒 川 智
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部総括研究官	橋 本 昭 彦
独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター長	葛 上 秀 文
株式会社茨城新聞社 代表取締役社長	小田部 卓
株式会社日本旅行 水戸支店長	関 洋 一
水戸市立第三中学校 校長	小野瀬 繁 子
茨城県立牛久栄進高等学校 校長	菅 原 佐知子
茨城県立常陸太田特別支援学校 校長	白 土 良 子

2 実施計画・結果

第 1 回外部評価委員会	
開催日	平成 30 年 7 月 27 日（金曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 教育研修センターの概要について・ 平成 29 年度事業実績について・ 平成 30 年度事業計画について・ 平成 29 年度外部評価委員会の評価結果について・ 事業評価に関する様式等について・ 質疑応答
第 2 回外部評価委員会	
開催日	平成 30 年 10 月 30 日（火曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 研修講座の紹介・ 研修講座の参観・ 研修講座に関する意見交換等
第 3 回外部評価委員会	
開催日	平成 31 年 2 月 26 日（火曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 平成 30 年度各事業の実績及び成果について・ 外部評価委員による事業評価

平成30年度外部評価委員会評価票の集計

次の各項目について、該当するものを選んでください。

- A：そう思う
- B：どちらかといえばそう思う
- C：どちらかといえばそう思わない
- D：思わない

1 研修センターの事業について

① 各事業の内容が具体的で分かりやすくなっているか。

② 教職員のライフステージに即した研修体系になっているか。

③ 研修事業について

ア 研修講座は、教職員の資質能力の向上及び指導の改善につながっているか。

イ 受講者のニーズを把握した研修内容になっているか。

ウ 所員の専門性の向上は図られているか。

④ 研究事業について

ア 各研究分野における内容は、国及び県の教育施策を反映した喫緊の課題に対応しているか。

イ 研究成果は、学校教育活動に生かされているか。

ウ 研究発表会は、参加者にとって満足感が得られるものであるか。

⑤ 校内研修支援事業は、学校現場の校内研修の活性化及び課題解決に貢献しているか。

⑥ 相談事業は、児童生徒・保護者等の問題の解決へ向けて適切に対応しているか。

⑦ 教育情報の収集及び提供に関する事業は、教職員の多様な要望に応えているか。

⑧ 研修センターの内部評価について

ア 教育研修センターが実施している各事業の達成目標、達成度評価は、適切であるか。

イ 内部評価は、適切に行われているか。

2 施設設備の整備等について

① 受講者の健康管理・安全管理体制は、確立されているか。

② 施設設備の維持管理が十分行われているか。

③ 障害者に対して十分配慮されているか。

④ 危機管理体制が確立されているか。

⑤ 清掃の状況は行き届いているか。

3 外部評価委員会について

① 開催回数及び時期（7月・10月・2月）は、適切であるか。

② 開催内容（施設見学・研修講座参観等）は、適切であるか。

③ 評価のための資料は、適切であるか。

④ 評価票の項目及び評価方法は、適切であるか。

人数(人) (計8人中)			
A	B	C	D
6	2	0	0
8	0	0	0

5	3	0	0
4	4	0	0
5	3	0	0

6	2	0	0
4	4	0	0
6	2	0	0
6	2	0	0
4	4	0	0
3	4	1	0

5	3	0	0
5	3	0	0

4	4	0	0
5	3	0	0
2	5	1	0
4	4	0	0
6	2	0	0

6	2	0	0
7	1	0	0
7	1	0	0
6	2	0	0

平成30年度茨城県教育研修センター第1回外部評価委員会記録

日 時	平成30年7月27日（金曜日）午前10時00分から午前11時30分まで
場 所	茨城県教育研修センター第1研修室
出 席 者	<p>○外部評価委員</p> <p>荒川 智 委員 橋本 昭彦 委員 葛上 秀文 委員 関 洋一 委員 小野瀬繁子 委員 菅原佐知子 委員 白土 良子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p>所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 菅又 章雄 企画管理課長 吉田 孝則 教科教育課長 辻 武晴 情報教育課長 渡邊 政美 教育相談課長 田部井 悦子 特別支援教育課長 藤森 幸子 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 委員委嘱</p> <p>4 出席者紹介</p> <p>5 委員長・副委員長の選任</p> <p>6 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 教育研修センターの概要</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 報告</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 平成29年度事業実績</p> <p style="padding-left: 40px;">イ 平成30年度事業計画</p> <p style="padding-left: 40px;">ウ 平成29年度外部評価委員会の評価結果</p> <p style="padding-left: 40px;">エ 事業評価に関する様式等</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) その他</p> <p>7 閉会</p>

- 1 開会
- 2 所長あいさつ
- 3 委員委嘱
委嘱状を交付し，委員を委嘱した。
- 4 出席者の紹介
外部評価委員会委員及び茨城県教育研修センター事務局職員を紹介した。
- 5 委員長・副委員長選任
委員長に荒川智委員を，副委員長に小田部卓委員を選任し，承認された。

6 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

(1) 教育研修センターの概要

事務局から資料1の教育研修センターの概要について説明後，次のような質疑応答があった。

- 手話通訳については，今年度から予算化したのか。
- 今年度の受講者に対応するために予算に計上した。今後も対象者がいるときには対応していく。

(2) 報告

事務局から資料2の平成29年度事業実績について説明後，次のような質疑応答があった。

- 平成29年度の実績において，中堅教諭等資質向上研修の実施率が73.5%と低いのは，どのような理由か。
- 中堅教諭等資質向上研修の計画数については，4年前の6年次研修を基に算出している。育児休業等による猶予者が復帰することを仮定して計画数を算出しているが，猶予を継続する方がいるので，実施率は低くなってしまう。
- 新規採用研修の受講者数が38人というのは，少なすぎるのではないか。
- 新規採用研修は，養護教諭，栄養教諭，実習助手が対象である。小・中学校，高等学校，特別支援学校については，初任者研修の項目で算出している。
- 初任者研修は採用者が対象となるはずだが，実施率が90%なのはなぜか。
- 他県からの現職教諭の採用等により，初任者研修の免除者がいるためである。

事務局から資料3の平成30年度事業計画について説明後，次のような質疑応答があった。

- いばらき教員養成セミナーに参加する学生の出身大学は，県内外で何校か。
- 今年度は，県内4大学，県外25大学の全29大学である。各大学への広報については，本県教員採用試験受験者の出身大学の上位100校中，60校は訪問し，40校については資料を郵送している。
- 研究発表会を2日間開催としたのは，どのような理由か。
- 2日間開催にしたのは，収容人数のためである。この2年間は，参加者が多く，本センターで収容できず，外部施設を借用して2会場の開催であった。今年度も同様の参加者に対応するため，2日間開催とした。また，2日間開催とすることで，第1日と第2日で異なった分野に参加できるメリットもある。
- 今年度から始まるベテラン教員研修については，45歳を対象としており，学校運営に積極的に関わってほしい年齢なので，大変期待している。
- ベテラン教員研修については，組織マネジメントとコンプライアンスの内容を予定している。さらに，受講者には，勤務校で教職員支援機構の研修動画を活用して校内研修を実施してもらい，研修成果を広めてもらう予定である。
- 教員の年齢構成は，約4割が50歳代という現状である。45歳の教員は，まだベテランという意識が低いので，ベテラン教員研修を45歳に設定したことは，意識を高めるためにありがたい。

- ベテラン教員研修は、免許更新講習の受講年度と重なってしまうのではないかと。
- 4月1日現在で45歳を対象としているので、旧免許状については、免許更新講習修了の翌年になるよう設定している。また、教員の負担を考慮し、ベテラン教員研修を入れた基本研修の総日数は減らしている。

事務局から資料4の平成29年度外部評価委員会の評価結果について説明後、次のような質疑応答があった。

- 昨年の委員から「資料から評価するのが難しい」という意見があるが、具体的にはどの項目か。
- 「施設設備の整備等について」の「③障害者に対して十分配慮されていると思いますか。」の項目である。今年度も第2回の委員会では、講座見学と施設見学を予定しているので、資料提示を工夫したいと考えている。

事務局から資料5の事業評価に関する様式等について説明後、次のような質疑応答があった。

- 事業評価シートの達成目標の項目には、事業概要の各研修の目的が記載されるのか。
- 事業概要に記載されている研修の目的を細分化し、研修を行うことにより、どのような状況になるかを具体的に表したものが達成目標である。
- 事業評価シートの改善内容の項目は、今年度改善した内容、または、今後改善が必要な内容のどちらなのか。
- 実施後の反省を受けて、今後改善する内容である。
- 外部評価委員会評価表について、昨年度から変更した項目はあるか。
- 平成29年度に評価票の大きな見直しを行っている。今年度は変更せず引き続き同項目で実施する。

(3) その他

事務局から今年度の外部評価委員会の予定について説明したが、質疑応答はなかった。

7 閉会

平成30年度茨城県教育研修センター第2回外部評価委員会記録

日時	平成30年10月30日（火曜日） 午前10時から午前11時30分まで
場所	茨城県教育研修センター 中会議室
出席者	<p>○外部評価委員</p> <p>荒川 智 委員 橋本 昭彦 委員 葛上 秀文 委員 関 洋一 委員 小野瀬繁子 委員 菅原佐知子 委員 白土 良子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p>所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 菅又 章雄 企画管理課長 吉田 孝則 教科教育課長 辻 武晴 情報教育課長 渡邊 政美 教育相談課長 田部井 悦子 特別支援教育課長 藤森 幸子 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 教育研修センター各課取組の紹介</p> <p>4 研修講座参観</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 小・中学校の学びをつなぐ! English Seminar</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校）</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 若手教員〔初任者〕研修講座（中学校）：情報教育分野</p> <p>5 研修講座に関する意見交換等</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>

- 1 開会
- 2 所長あいさつ
- 3 教育研修センター各課取組の紹介
 - ・今年度作成した教育研修センター紹介動画を視聴
- 4 研修講座参観（講座説明及び参観）
 - ・小・中学校の学びをつなぐ! English Seminar
 - ・中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校）
 - ・若手教員〔初任者〕研修講座（中学校）：情報教育分野

5 研修講座に関する意見交換等（○は委員，●は事務局を表す）

教育研修センター（以降，センター）研修講座参観後，次のような質疑応答があった。

(1) 小・中学校の学びをつなぐ！English Seminarについて

- 中学校教員は，小学校の外国語教育の現状を知らないという状況がある。参観した講座では，小・中学校の先生と一緒に研修し，積極的に話し合っていたので，情報交換の場としても有効であると思う。
- 高等学校教員も小・中学校でどのような学習をしているのかを知らないで，異校種合同の研修は必要であると思う。
- 話せる英語力を身に付けさせるために，どのような授業を行えばよいかをディスカッションしているのがよかった。
- 先生方が作成した資料を見ると，小学校の先生方は子どもを惹きつける課題から授業を計画しているものが多かった。中学校の先生もたいへん参考になるのではないか。

(2) 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（高等学校）

- 講義形式であったが，質疑応答の時間はどのくらいあるのか。大学の講義では，学生から意見を引き出すのが難しいが，研修における先生方はどのような様子なのか。
- 本日は，講義後に模擬授業の演習を行うことで，意見交換の時間を設定している。普段の講義においては，隣同士で意見交換を行う時間をつくり，講義だけにならないよう工夫している。
- 先生方は，講義のみの研修は求めていないので，協議の時間を多く設定している。また，協議においては，活発な協議にするために話し合いのツールを活用している。

(3) 若手教員研修〔初任者〕研修講座（中学校）：情報分野について

- ICT機器を積極的に活用している教員もいるが，苦手としている教員もいるので，基礎的なことから教えていただける講座も設定してほしい。
- ICT機器について，新しい機能や活用法を紹介しており，大変参考になった。
- ICT機器の使い方だけでなく，授業での活用法についても研修しており，進んでいるという印象をもった。
- 情報化に潜む犯罪等もあるので，情報モラルや情報セキュリティーについての研修も進めてほしい。
- 初任者の元気がないように思った。積極的に学んでいこうという姿勢を育てていくことも大きな目標になるのではないか。

(4) 長期研修について

- 長期研修の先生に，研修センターを希望した理由を質問したところ，県の方針に沿った研修ができ，学校に戻ったときにすぐに活用できることや研修の道筋がしっかりしていて，丁寧に教えてくれること，研修期間にさまざまな講義を聴講でき，専門以外も勉強できることなど，よい感想をいただいた。

(5) その他

- 研修センターの紹介動画から，先生方が五感で学んでいる様子が伝わってきた。
- 参観した講座は，社会の情勢の変化に対応したものであった。
- 施設の活用について，図書情報室が知的なサロンに活用されるなど，教員研修の施設として素晴らしいと思った。
- 昨年度と同じではいけないという説明があったが，毎年変えていこうという姿勢が所内にみなぎっているのが素晴らしいと思った。

6 その他

外部評価委員会の今後のスケジュールについて（熊田次長）

7 閉会

平成30年度茨城県教育研修センター第3回外部評価委員会記録

日時	平成31年2月26日（火曜日） 午後3時から午後4時30分まで
場所	茨城県教育研修センター第1研修室
出席者	<p>○外部評価委員 荒川 智 委員 橋本 昭彦 委員 葛上 秀文 委員 小田部 卓 委員 関 洋一 委員 小野瀬 繁子 委員 菅原 佐知子 委員 白土 良子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター 所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 菅又 章雄 企画管理課長 吉田 孝則 教科教育課長 辻 武晴 情報教育課長 渡邊 政美 教育相談課長 田部井 悦子 特別支援教育課長 藤森 幸子 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次第	1 開会 2 所長あいさつ 3 議事 (1) 平成30年度各事業の実績及び成果 (2) 外部評価委員による事業評価 (3) その他 4 閉会

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

(1) 平成30年度各事業の実績及び成果

・事務局から説明

・資料に関する質疑

【資料1「各事業における事業評価」について】

○ 受講者の満足度等が高い割に事業評価は低いのではないかと。

● 担当者が想定した達成目標まで高まっても、事業評価が低いものがある。達成目標に対する達成度を適正に評価する事業評価にしたい。

- 教員の資質の向上に関する指標に基づいて達成目標を設定しているが、達成目標の立て方については、理解まででよいものや行動変容まで求めるものなどの違いが見られる。また、達成度を判断する基準が明確でないものもある。全体的には、達成度目標を明確にし、達成度目標に基づく受講者アンケートを実施しているので、内部評価としての質は高いと思う。
- 事業評価シートの達成目標や達成度評価については、手立てや基準が明確でないものもあるので改善したい。
- 達成度評価の記述は、受講者の満足度等の数値だけでなく、受講者の感想や要望の記述があるとよい。
- 先生方がどのようなことを要望しているかを把握することは重要であるので、受講者の感想や要望も達成度評価に記述するようにしたい。
- 所員の専門性の向上については、今年度は評価資料があったのでわかりやすく、参考になった。

【資料2「事業に関する100校抽出アンケート結果」について】

- 質問項目「教育研修センターWebページの教育情報の利用状況」では、「頻繁に利用している」が少ない。過去と比較して利用状況は向上しているのか。
- 客観的な数値はないが、研修センターのWebページを昨年度末に一新したので、現場の先生方からは見やすくなったという意見をいただいている。また、今年度は、各研修に関する動画を多く載せるようにしている。
- Webページには、悪天候等による研修日程変更等の緊急情報やアレルギー対応のための食堂メニューも掲載している。
- 同質問項目の選択肢「閲覧したことはないが機会があれば閲覧したい」の選択数が減ってきており、徐々に先生方に見ていただく機会が増えてきたと感じている。
- 市町村のネットワークが組まれているので、市町村教育委員会のWebページは開くことが多い。研修センターのWebページを閲覧するためには、市町村のネットワークから切り替える必要がある。勤務時間内でWebページを閲覧して情報収集している先生方は少ない。学校でも広報していきたい。
- アンケートの選択肢について、違いが明確でないものがある。また、複数回答の選択肢では、内容が重なるものもあるので回答が分散しているように思う。
- 選択肢が似ているものについては、今後検討したい。

【資料3「事業等の実施状況」について】

- 研究発表会アンケート結果について、受講者の満足度が「十分満足」と「おおむね満足」の合計を分析しているが、「十分満足」の数値で分析するとよいのではないか。
- 研究発表会に対する自由記述では、受講者は、すぐに使える資料を求めているようである。Webページに資料を掲載することで、受講者のニーズに対応できるのではないか。

(2) 外部評価委員による事業評価

【1 研修センターの事業について】

- いばらき教員養成セミナーについて、参加者が増加し、昨年度以上に成果があがっていると思った。
- 参加者を増やすために今年度は、大学の夏休み期間に実施できるようにした。また、初年度の様子の動画を作成し、大学への配付やWebページに掲載した。さらに、2年連続の受講者に対応するため、昨年度と会場や内容を大幅に変更し、2年サイクルの内容にした。これらの取組により受講者が増加したと考える。
- キャリアステージに合わせた研修をされている。特にすばらしいと思ったのはベテラン教員研修である。ただし、ベテラン教員は校内におけるポジションの差が大きく、それぞれが直面している課題が大きく違っているため、どのように講座を設定し、評価するのが課題ではないかと思う。
- 年度当初からベテラン教員研修を成功させることは重要だと所員に伝えてきた。1日目のマネジメントの内容は評価を低く付ける受講者もいたが、2日目のコンプライアンスの内容は評価が高くなったので、受講者の意識が変容してきたと考えられる。受講者には、ベテラン教員研修後、教職員支援機構の研修動画を活用し、校内研修を企画・実施してもらったが、来年度はさらにバージョンアップしていくことを考えている。2日目を経て現場の先生方の要望と合致した研修であったのではないかと考えている。
- ベテラン教員研修は、勤務校でさらに校内研修を企画運営するプログラムであったのがとてもよかった。若手教員も一緒にSWOT分析を行い、活発な意見交換ができた。受講者だけでなく学校に変化をもたらしてくれたのがありがたかった。
- 今年度の若手教員〔初任者〕研修（特別支援学校）では、管理職が研究協議を参観する機会があり、学校の職員を育成するにあたり参考になるものであった。受講者だけでなく、学校に対してもどのような働きかけをするかが大切であると思う。
- 研修は受講して終わりではなく、現場に戻ってどう生かしていくかが重要となってくる。研究発表会などで先生方の取組を発表するなど考えられる。また、ベテラン期の先生方の力量を発揮できる場として、校内にコンプライアンス主任や外部連携主任などの新たな役割をつくることも考えられる。
- 情報提供について、研修センターから様々な教育情報を提供されているが、教職員としては活用できていない現状である。また、多様な要望に応えているかについては、学校が抱えている問題の対策等の情報は市町村教育委員会が主体となっているので判断し兼ねた。
- 県庁の教育関係課と役割分担しながら各事業を進め、今日的な課題に対応するために事業や講座を構築している。それに伴う広報もしているが、我々が期待するところまでは至っていない。効果的に一人一人の先生方が必要とする情報を提供できるよう今後も検討していきたい。
- 民間も若手職員に対する研修はあるが、ベテラン職員に対する研修は、どのような研修を行えばよいかは課題である。モチベーションを高めるような研修プログラムを考えていければよいのではないかと思う。

- スクールカウンセラーの派遣が減員になったので、研修センターで教育相談を行っているはありがたい。まだ申込み方法等が分からないところもある。
- 高校生の相談は近年増加しており、相談の申込みは、学校からの紹介が多い。周知については、教育相談のチラシを作成し、各学校への配付や研修にきた先生方への配付を行うことで周知を図っている。
- 発達が気になる子どもの教育相談は減っているが、特別支援学校のセンター的機能が充実してきており、そちらへの相談が増えてきたと考えられる。今後、研修センターと特別支援学校のすみ分けも必要なのではないか。
- 各地域の発達が気になる児童生徒に関する相談機関が充実してきたこともあり、近隣の相談機関等を提案したり、紹介したりしている。それでも難しい場合には、改めて相談を受けている。

【2 施設設備の整備等について】

- 障害のある受講者への対応は一人一人違うので、「障害者に対して十分配慮されているか」の項目は、一概に判断ができなかった。視覚障害や聴覚障害の方に対して、どのような対応をしているのかを聞きたい。
- 今年度は、聴覚障害のある方には、手話通訳を毎回依頼して受講していただいた。また、視覚障害のある方には、事前に講義資料を電子データで送付し、受講者が個人で所有している専用端末（ブレイルメモ）を使って研修に参加できるようにした。
- 配慮が十分であったかは、受講者に意見を聞かないと分からない部分があると思う。
- 配慮が十分であったかという内容では調査していないが、聴覚に障害のある受講者が参加する複数日の研修全てに手話通訳を依頼したので、受講者からは感謝の言葉をいただいている。
- 暑い、寒いなどの意見が毎回ある。対策には費用がかかることなので、受講者の意見や本委員会の意見を県に伝えていくことが大事である。

【3 外部評価委員会について】

- 開催回数及び時期については、適切ではないか。
- 研修センター各事業の達成度目標の立て方等については、学校行事等の企画・運営でも参考になるものであった。

(3) その他

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明

4 閉会